



報道各位

2021年9月30日

CytoReason 社の AI プラットフォームを活用した協業に関する国内製薬企業との契約締結について

CytoReason Ltd. (本社: イスラエルテルアビブ、以下「CytoReason」) と住商ファーマインターナショナル株式会社 (本社: 東京都千代田区、以下「住商ファーマ」) は、この度、国内の有力製薬企業の一社と CytoReason の AI 技術を活用した協業に関する契約を締結し、CytoReason が日本市場における最初の一步を踏み出したことを発表しました。CytoReason は、創薬研究と臨床開発に用いる独自の論理的疾患モデルを開発する AI 企業です。住商ファーマは、医薬分野で様々なサービスや製品を提供しています。

このプロジェクトでは、CytoReason の AI プラットフォームとして疾患モデルを使用し、日本の製薬企業が保有する臨床試験データを解析します。この解析を通じて、既存の治療薬と比較して、開発中の新薬がヒトの体内でどのように振る舞うかを分子レベルで理解することが可能となります。

本プロジェクトは、AI を臨床開発に活用した、イスラエルの企業と日本の製薬企業の初めての協業*となり、免疫疾患領域において、疾患のメカニズムと薬剤の作用機序の関係性を解き明かすことで、開発中の新薬の価値向上を目指しています。

CytoReason が独自のアルゴリズムとデータで構築した疾患モデル「Cell-Centered Model」によって、製薬企業やバイオテクノロジー企業は、創薬研究と臨床開発を加速することが可能となり、研究者は、CytoReason の技術によって、ヒト体内の免疫機能に関する重要な知見を一手に得ることができます。これにより、研究開発の成功率が向上し、開発期間が短縮することで、医薬品をより早く、より低コストで上市が可能となります。AI を利用した研究開発は医薬分野で不可欠なものとなりつつあり、CytoReason の技術が注目されています。住友商事グループは、さまざまな業界でデジタルトランスフォーメーションを推進しており、住商ファーマは、CytoReason の独自 AI プラットフォームによるデータ駆動型の研究開発支援を行っていきます。

CytoReason の CEO 兼共同創設者である David Harel は、次のように述べました。「当社は、日本の医薬分野における重要なプレーヤーと共に日本市場に参入することを大変嬉しく思います。この協業は、当社のみならず、世界の医薬品産業にとって有意義なものです。」

住商ファーマの代表取締役社長である奥山勝也は、次のように述べました。「CytoReason が日本市場でプロジェクトを開始したことを非常に光栄に思います。当社は、CytoReason の日本総代理店としてヘルスケア業界に引き続き貢献してまいります。」

*当リリース時点の公開情報に基づく

###

CytoReason について

CytoReason の疾患モデル「Cell-Centered Model」は、細胞レベルでヒトの疾患をシミュレートし、動物試験を必要最小限に抑え、臨床試験をより絞り込み且つ正確なものに繋がられます。CytoReason の独自データベースと AI で構成されたプラットフォームによって、製薬企業やバイオテクノロジー企業は、短期間、低コストでデータにもとづく意思決定を行うことができます。現在までに、世界の上位 10 社の製薬企業のうち 6 社が、効果の高い薬を、適切な患者に、適正な価格で提供するため、CytoReason の技術を使用しています。詳細については、www.cytoreason.com をご覧ください。

住商ファーマについて

住商ファーマは、創薬研究向けの研究機器と生物資源、医薬ライセンス、研究提携支援から、新薬、ジェネリック薬及びバイオリジクスの原薬、中間体の製造向けに至るまで、製薬業界に高品質で統合された製品やサービスを提供しています。親会社である住友商事株式会社は、66 か国 113 拠点、日本国内 22 拠点を有し幅広い製品・サービスを提供しており、グローバルリーディング企業の 1 つです。住商ファーマは住友商事の中核事業会社としてメディカルサイエンス向けの製品・サービス提供の中心的役割を担っています。詳細については、www.summitpharma.co.jp をご覧ください。

お問い合わせ先:

住商ファーマインターナショナル株式会社 (CytoReason 日本総代理店)

研究推進部 バイオサイエンスグループ

Email: alliance@summitpharma.co.jp